

〜〜〜食べ物食べ歩き番組に物申す〜〜〜

先日、「日本語八ツ当たり」で世相に物申した序に、テレビ番組にも物申す。
小生はテレビは余程のことがない限り見ないので、そのような輩がテレビ番組に文句を付けるのは如何なものかと言われれば、「ハイ、それはそのとおりでゴザイマス」と引き下がるしかないが、時々チラッと目に入るテレビを見てみると、「食べ物食べ歩き」のような低級低俗番組が溢れているように見受けられる。

大抵はお笑いタレントと称される人種が1日に何軒も飯屋をハシゴして、何処でも判で押したように如何にも悦に入った様子で「ウッ、ウ〜ウン、これは美味しい!、サイコーッ!」とか何とか喚いて（喚かされて）いる番組である。出された料理の美味さを聞かれても、これ以外のコメントを述べる訳でもなく唯々“美味しい”だけを連発する様子は、ディレクターなる人物のヤラセとしか思えない。番組も低級であるが、食べ歩きのモデルをしているタレントの物言いも低俗&下品であるが、それを制作しているディレクター氏、放映しているテレビ局の常識と品性が疑われる番組と言っても過言ではなかろう。

テレビ電波は公共の財産であるから、このような低級番組のために公共の財産をドブに捨てるような無駄遣いはやめて貰いたい。

安物お笑いタレントを使えばギャラも低額で済むであろうし、取材先の飯屋にも取材費は支払っていないだろうから、テレビ局にとっては番組作成費が格安で済むというメリットがあるのかも知れないが、凡そ低費用で作成した番組はやはり低級低俗な出来栄となるのは理の当然ではなかろうか。

ヤラセをやらせているディレクターもディレクターで、番組の質などは一切考慮することなく、如何にお茶の間の視聴率を上げてスポンサーを喜ばせるかという指標だけしかアタマに無いのであろう。マ、民放としてはスポンサーからの収入だけが経営の原資であるから経営上からすればこのことも領けないことも無いが、良い番組なら視聴料を払ってでも見るという視聴者は多い。

一方で、以前の料理番組には、著名な料理人が料理を作る過程を見せながら、料理に関する成り立ちの歴史や習俗・風習、話題などを提供してくれる番組があった。また、俳優でありエッセイストでもあった沢村貞子が26年半にわたって記した「献立日記」をもとにしたテレビ番組「365日の献立日記」（NHK Eテレ、現在も放映中）という番組もあり、これらの番組は料理や食べ物に左程の興味が無い視聴者にも好評である。番組が拠って立つ理念がキチンと備わっているからであろう。

冒頭で物申したような、番組の主張も無く、そうかといって何の情緒も見せ所も無い単にお笑いタレントに飯屋の暖簾を潜らせるだけを放映する低俗番組は少しはこれらの番組を見習ったら如何か。

また、視聴者の方も視聴者で、お茶の間のぬるま湯に浸かって毒にも薬にもならない低俗番組を見るから自ずと自動視聴率測定装置に取り込まれて視聴率が上がり、当該テレビ局やスポンサーの思う壺に嵌るという寸法になる。ヤレヤレ・・・。

(2024/08/19 記)